

レイチェル・マクレイブ  
インターセクションズ・インターナショナル  
アメリカ

## 論点

社会的・人種的・経済的正義の観点から

- COVID-19がさまざまなマイノリティと貧困層に与えた影響
- 気候変動と社会的問題との交差点
- 政府と諸機構の責任を問う
- 偏見とたたかう上での異文化間対話の重要性
- 社会変革と運動の構築における青年の役割

## 発言

みなさん、こんにちは。レイチェル・マクレイブです。インターセクションズ・インターナショナルでプログラムを担当しています。私たちは、どんな分野においても、平和構築の努力を成功させるためには、確立された人権と、人種・民族・ジェンダー・アイデンティティ・性的指向・宗教的帰属・社会経済的地位・出生国に関わらずすべての人の尊厳を守ることが必要だと考えています。インターセクションズで、私たちは、ステレオタイプや間違った物語を排除し、相互理解を育み、協力を促進し、はっきりと変化をもたらすようなやり方で外交を用いながら、宗教と和解の先頭で活動する多様なグループを垣根を越えて結集しています。

私たちはニューヨーク・カレッジエイト教会の5つの聖職者団のうちの1つで、グローバルな社会正義のために尽力しています。私たちは国連の特別諮問資格を有しています。私たちのプログラムは十数か国と米領バージン諸島、プエルトリコ、そしてアメリカ本土に広がっています。私たちの使命は、世界で最も緊急なニーズに応えることです。それを平和、正義、和解を最も必要としている人々のために自らの信仰に導かれながらおこなっています。

現在私たちは困難な時期にあります。世界は集団的なトラウマを経験しつつあり、それはすでに私たちの生活と将来を永久に変えてしまいました。COVID-19 パンデミックはこの地球の隅々まで広がりました。人々の健康に破壊的な影響を及ぼすだけでなく、この危機はまた、すでに多くの社会に存在する不平等をより深刻なものにしています。例えばアメリカでは、所得の不平等、失業、人種差別、少数者が十分に医療を受けられない状況など、すべてがいつそう悪化しています。ソーシャル・ディスタンスや在宅勤務など感染予防策がとれるのは恵まれた人々です。ソーシャル・ディスタンスなど望めない狭い部屋に住んでいたり、在宅勤務ができない多くの人々は仕事を失い、現在失業者は2600万人にのぼります。COVID-19収束後の生活の問題に対処する時、そして現在の状況が終息した時にすべての人々のため

により良い社会を作ろうとするときには、このような固定化した不平等を考慮に入れて臨むことが重要です。

社会正義は環境の正義と結びついています。気候変動は世界中で異常気象を増加させており、私たちの世界全体に差し迫ったもう一つの脅威です。自然災害が発生すれば、少数民族、女性、子ども、貧困層、高齢者、LGBTの人々など社会の周縁に追いやられた人々は、すでに背負っている経済的困難のゆえに、より大きな悪影響の犠牲になります。ところによっては、社会規範によって、これらのグループの人々が復興や救援の努力から取り残されることもあります。インターセクショナルズは、国連社会開発委員会に対してこの問題、とくにカリブ海地域での問題を概括した声明を送りました。例えばプエルトリコでは、ハリケーン・マリアとイルマ、そして2020年の地震が、多くの面で周縁化されたグループにとっての不平等を助長しました。このため住宅難が起り、人々の精神面の健康状態は急速に悪化しています。バハマにおいては、昨年のハリケーン・ドリアンが、インフラ、住宅、そして多くの人々、主に社会から取り残されているグループの生活を、完全に破壊しました。脆弱なコミュニティは今なお打ちのめされ、影響から立ち直っていません。

平等なしに平和はありません。持続可能な平和へのカギは、あらゆるレベルで不平等の根源に焦点を当てることです。主張し運動すること、地域社会の組織化と外交努力のすべてが協力しあって、すべての人々にとって正義と公正が実現します。私たちの社会を構成している複雑で相互に関連した諸問題を一気に解決できる万能薬のようなアプローチは存在しません。気候変動、経済、国民の医療、人種的正義、平和はすべてが相互に関連しているのです。

私たちが切実に必要としている変革のための運動構築と相乗効果をもたらすためには、どんな行動のステップをとるべきでしょうか？このグローバルなパンデミックが起こらなければ、私たちががちりと組み込まれている社会的な病気を見直すことはなかったでしょう。どうすれば、私たちのネットワークを最も効果的に活用し、私たちが閉じ込められているサイロを打破することができるでしょうか？すべての人々の人権と尊厳という現実の目標を達成するには、どうやって分野を超えて協力すればいいのでしょうか。

人間同士の繋がる力を過小評価してはいけません。一人ひとりが繋がることで、より共感を強め、真の繋がりをつくり、偏見と立ち向かうことができます。お互いの中に距離を置くと、見た目が似ていない人々を簡単に「他人扱い」してしまいがちです。自分たちが知らないあるいは理解できない人々を恐れてしまうのです。その結果、恐怖、無知、嫌悪、完全無視という態度が、しばしば暴力や残虐行為を引き起こします。

異なる背景を持つ人々を対話やコミュニティに招き入れることで、私たちは違いについての理解を深め、固定観念を解消することができます。これは異なる文化の

間での、異なる宗教の間での、そして国際的な対話を通じて可能になります。インターセクションズ・インターナショナルがとりくんでいる一例は、最近中東でおこなったプロジェクトです。パートナー団体であるアル・アマナ・センターと協力して一週間にわたる異なる宗教間の平和構築ワークショップをオマーンのマスカットで開催し、ここにナイジェリアのイマーム（イスラム教指導者）たちが参加するための旅行費用を援助しました。宗教や文化面で影響力のある社会的指導者たちを巻き込んだこのようなプログラムを通じて、私たちは多彩な指導者や運動家たちの参加を得て、新しく革新的な方法で社会的不正義とたたかい続けることができるでしょう。

若者たちは、古い問題の解決に新鮮なやり方を導入するために重要な役割を果たします。私たちは、もはや通用しない解決策や現状維持に甘んじているわけにはいきません。集団としての社会をよりよくすることを主目標とせねばなりません。次世代の起業家、学生、活動家、思想的指導者、発明家、政策立案者に耳を傾け、権限を与え、彼らを参加させることが重要です。彼らこそがこの先数十年にわたりこの運動を前進させていく主力となるからです。青年たちはその意欲と能力にあふれています。私たちの多くはすでに、これら社会経済的問題を地元社会で解決する方法を見出しつつあります。世代を超えた会話と指導は、社会変革運動の幅を広げるために不可欠な要素です。私たちは歴史から、そして先輩たちから学ぶべきです。私たちはみな、誰かの努力の上に運動しているのです。そしてさらにこの先私たちの努力の上に積み上げて運動する人々が生まれるでしょう。やるべきことは山のようにはありますが、私たちはクリエイティブでなおかつ深く根差した方法で、一步一步意味のある前進ができる方法を探さねばなりません。みなさんと共に。